

特定非営利活動法人 Global Bridge Network

令和5年（2023年）度 事業活動報告書

1. 活動期間：2023年4月1日～2024年3月31日

2. 事業活動の要旨

昨年度に引き続きウガンダにおいて「生理で学校に行けなくなる女子学生の教育環境改善事業」（JICA 草の根協力支援型）を実施した。2023年7-8月に大西・横田がウガンダへ渡航し、1年ぶりに現地視察を行い、事業の進捗確認をした。

日本国内における国際交流事業としては、2024年2月末に開催されたSDGsみなと会議に参加し、一般の参加者を対象にセミナー（GBNの活動紹介等）を行った。

2023年度も当団体のHP、Facebook、ブログ、動画等を活用し、国際支援の活動報告と異文化理解の促進、ネットワークの構築等を目指して情報を発信した。2021年度より開始したウェブサイト（当団体のHP）の構築作業が完了し、日本語・英語のウェブサイトを公開することができた。

2024年度は、6月末で「生理で学校に行けなくなる女子学生の教育環境改善事業」が終了するため、事業のラップアップの業務、新たなプロジェクト申請のための立案・申請準備を中心に活動を行う。2024年4-5月に現地視察のため大西がウガンダへ渡航し、事業の成果確認、新たな事業立案に向けて現地における意見交換やネットワーキングを行うことを予定している。

3. 実施した事業内容

主な事業は「国際支援事業」、「国際交流促進事業」の2本柱であり、以下にその活動内容の詳細を述べる。

① 国際支援事業

1) 「生理で学校に行けなくなる女子学生の教育環境改善事業」（JICA 草の根協力支援型）

- 実施期間：2021年11月1日～2024年6月28日（当初は2024年4月末で終了、2年6ヶ月間の予定だったが2ヶ月間延長し、2年8ヶ月間となった）
- 実施場所：ウガンダ共和国（ムベンデ県、ワキソ県、ブタンバラ県）
- 受益者：4,310名（生徒3,000名、教員60名、地域住民1,200名、Happy-Pad プロモーションセンターでのトレーニング受講者50名）
- 事業内容：

事業地では女子生徒が貧困のため生理用品を所持できず、生理期間中に通学出来なくなるという問題が発生している。洗面所やトイレなどの学校施設の不備、また生理や衛生管理に関する知識不足、不衛生な古着等をナプキンの代替品として使用することで感染症になったり、衣

服に漏れて男子生徒にからかわれることが原因で退学してしまうなど、女子生徒の教育環境には様々な問題がある。

2023年度は、2022年度に引き続き、各対象校（計30校）のトイレ、更衣室、水回りなどの学校設備の修繕・整備を行い、全ての対象校で修繕、整備が終わった。各学校にて設立した月経衛生管理（MHM）クラブのメンバーが設備の清掃・管理を担っており、プロジェクトチームの定期的なモニタリングにて維持状況を確認した。

また教員対象のトレーニングを受けた学校教員は月経衛生管理の指導ができるようになり、多くの学校で月経時の衛生管理、性教育、ジェンダー啓発の授業が時間割に組み込まれ、定期的実施されるようになった。その結果、女子生徒は月経を学校内であっても適切に対処ができるようになり、月経をからかう男子生徒が減り、女子生徒をサポートする生徒が増えた。また、月経を理由とした欠席や退学が減少したと多くの学校から報告された。

3県にて、地域住民への啓発として、月経時の衛生管理や女子生徒の教育サポートについてラジオトークショーやスポットメッセージ（ラジオCM）を放送した。リスナーからは、発信した情報へのポジティブなコメントや要望が寄せられた。

また、全対象校にて生理用布ナプキン作成のトレーニングが継続され、ムベンデ県（生徒786名、教員37名、コミュニティ43名）ワキソ県（生徒2,270名、教員36名、コミュニティ22名）ブタンバラ県（生徒414名、教員37名、コミュニティ310名）が参加した。トレーニングを受講したいという生徒の数に対してミシンや材料が足りないという報告が引き続き多くの学校からあったが、保護者からの少額の寄付を募るなどして材料費、ミシン代を集め、活動をスムーズに実施出来る学校も少数ではあるが出てきた。

ワキソ県のHappy-Padプロモーションセンターはクローズし、2023年2月にブタンバラ県にHappy-Padプロモーションセンターを開設し、資機材や活動をブタンバラ県のセンターのみに集約した。2023年度には、227名に布ナプキン作成のトレーニングを実施し、3,434枚のナプキンを生産、732枚を販売、778枚はサンプルとして生徒へ寄附した。

MHMクラブの生徒・教員が互いに学び合うための「School to school learning visit」を、4月にワキソ県、ムベンデ県で実施した。（ブタンバラ県は2023年3月に実施済）

同じく3月にプロジェクト活動の進捗・課題を共有し、地方政府や学校関係者間の意見交換を目的としたMid-termレビュー会合をワキソ県では4月に実施した。（ムベンデ県、ブタンバラ県は2023年3月に実施済）

2023年8月のGBNの現地訪問時に、現地パートナー団体（SORAK、VOTU）と共に保健省、並びに地方政府機関（Nansana Municipality、ブタンバラ県政府）を訪問した。本事業の進捗報告、課題の共有等を行い、今後の活動の継続に向けての意見交換等を行った。

月経時の衛生管理に関するOnline Sessionを2023年4月、5月、7月、12月にそれぞれ異なるテーマで実施し、女性支援団体、障がい者支援団体、政府関係者などのべ83名の参加者があった。月経時の衛生管理やジェンダー平等に関心の高い団体とのネットワークの強化を行うことが出来た。またオンラインセッションに参加した他団体（現地NGO）が布ナプキン生

産を始めるといふ成果も見られた。

本事業の目標達成のための指標である①生理期間中登校することへの不安感を持つ女子生徒の減少、②女子生徒の生理が原因による欠席率並びに退学率の減少については、教員からのヒアリングにより、かなり成果が出ていることが現地視察やローカルパートナーによるモニタリングの際のヒアリングで確認出来た。布ナプキンの作成のトレーニングへの参加のモチベーションはどの学校でも高く、特に男子生徒が積極的に参加していると報告した学校が多かった。縫製のスキルは仕事・収入獲得に繋がるために、保護者も積極的に生徒が参加することを推奨しているという報告もあった。

今後の主な課題としては、対象校における布ナプキン生産を持続するための資金確保・仕組みの構築、事業終了後のモニタリングや指導の継続、プロモーションセンターにおける布ナプキンの安定的な生産・販売、品質の保証、布ナプキントレーニングの普及などが挙げられた。これらの課題を踏まえつつ、事業終了後の活動継続の方策や、新たなプロジェクトの立案に向けて JICA、協力団体や政府機関、ステークホルダーと意見交換を行っていく。

なお、今後、ウガンダにおいて事業を本格的に実施するために、同国における NGO 登録の手続きを開始した。

- 活動報告のリスト : <https://globalbridgenetwork.org/mhmgirlseducation/>
- (本事業の紹介動画 : <https://www.youtube.com/@gbnglobalbridgenetwork4808/videos>)

		
ムベンデ県の対象校視察	ワキソ県の対象校視察	保健省の訪問
		
プロモーションセンターで生産・販売している布ナプキン	JICA のプロジェクト視察 (ブタンバラ県 Butende 初等学校)	ワキソ県ナンサナ自治区の教育担当官とのミーティング

2) 「布ナプキンスタートアップ事業」

- 実施期間：2023年8月
- 実施場所：ウガンダ共和国（カンパラ市、ナグル教区、ナグル初等学校）
- 受益者：ナグル初等学校に通う女子生徒
- 事業内容：

ウガンダ現地のVLF（ビジョナリーレディ財団）と協力し、カンパラ市のナグル教区にあるナグル初等学校にて2023年8月に追加支援（ミシン2台、その他の材料）を実施した。

寄贈式では、生徒たちによるダンスや寸劇、女性生徒たちによる生理用布ナプキン作り等を披露していただいた。ナプキン作りのクオリティが少し低かったため、同行したJICA事業のカウンターパートであるVOTUからナプキン作りのコツなどのアドバイスを提供した。今後は保護者や地域の女性たちにもナプキン作成トレーニングを実施し、地域の女性の地位向上を目指しビジネスとして拡大していく予定である。



生徒たちがナプキン作りのプレゼンの練習

生徒たちが自らミシンの練習をしている

教員のボランティアがナプキン作りを披露している

	
<p>追加支援としてミシン購入</p>	<p>贈呈式</p>
	
<p>生徒たちによるダンス</p>	<p>ナプキン作成の指導</p>

② 国際交流促進事業

1) ウェブサイトの改訂作業

JICA 主催の「ICT を活用した NGO 能力強化研修」の支援を受け、Word press を利用した新しいウェブサイトの構築作業を 2021 年度より開始し、毎月約 1 回の頻度で専門家の指導を受けながら作業を進めた。2022 年度には日本語版のウェブサイトが完成し、2023 年度 6 月に英語版のウェブサイトも完成し、公開した。



The image shows two side-by-side screenshots of the Global Bridge Network website. The left screenshot is the Japanese version, featuring a header with navigation links (Home, About Us, Business Activities, Staff/Partners, Contact Us, etc.) and a main banner with the text '国際支援や交流などを通じ、人と人を繋ぐ世界の架け橋になれるよう活動しています' (Through international support and exchange, we aim to become a bridge connecting people and the world). Below the banner are three video thumbnails with titles like '活動紹介' (Activity Introduction), '生涯で学校に行けなくなる女の子の教育環境改善' (Improvement of the educational environment for girls who can no longer attend school for life), and 'ブナプキン事業による環境保全・環境教育の重要性と意義' (Importance and significance of environmental conservation and education through the Bunapkin project). The right screenshot is the English version, titled '国際支援事業' (International Support Activities), and displays six project cards with images and titles such as '女の子の教育環境改善事業' (Improvement of girls' educational environment), '布ナプキンスタートアップ事業' (Bunapkin startup project), '【環境美化】ゴミ処理とリサイクル' (Environment beautification: Waste treatment and recycling), '環境保全と地域活性化' (Environmental conservation and regional revitalization), '女性・若者の経済的自立支援' (Economic independence support for women and youth), and '農業におけるICTとジェンダー意識調査' (Survey on ICT and gender awareness in agriculture).

- 日本語版ウェブサイト : <https://globalbridgenetwork.org/>
- 英語版ウェブサイト : <https://globalbridgenetwork.org/en/>

2) 情報発信

ウェブサイト、Facebook、ブログ、Syncable（寄附サイト）、YouTube 等を活用し、現地の状況や活動報告レポートなどを原則日本語・英語の両方で掲載した。当団体の活動を知っていただき、支援者や会員を増やすことを目指したが、対面イベントの開催が難しかったこともあり、直接入会を呼びかける機会がなく、新たな入会者はいなかった。引き続き会員獲得に尽力したい。

3) 他団体との連携の模索

上述のウガンダにおける事業を契機とした日本国内、並びにウガンダ等の海外の団体からの連携・協力の打診が多数寄せられ、連携を検討した。例えば、NPO 法人安房文化遺産フォーラムが支援するウガンダの団体の代表には、現地のプロモーションセンターにて事業の概要や布ナプキンの作成方法を説明し、事業への理解を深めていただくと共に布ナプキンの作成の取り組み準備を進めている。問合せ、またはオンラインセッションなどを通じて繋がったウガンダの複数の NPO と、将来的な連携の可能性に関する意見交換などを行った。

4) ボランティアの受け入れ

本年度はボランティアとして GBN の活動に参加したいという問合せが複数あり、短期間では

あったが、数名には実際にボランティアとして動画編集などの GBN の業務に関わっていただいた。ボランティアの受け入れは次年度も継続する予定である。

5) 活動紹介

2024年2月27日 SDGs 多文化 CITY フォーラムに参加し、ウガンダにおける上述の事業についての説明を一般の方を対象に実施した。対面のみでの開催であったことが要因で参加者は少なかったが、少人数だったために積極的に質問していただき、同事業の概要や目的、課題等を理解して頂けた。今後は、イベントの告知をより多くの関心層に届けられるよう、広報活動を工夫していきたい。



セミナーの様子



参加者からの質問に回答

法人名： NPO法人Global Bridge Network

貸借対照表

2024年3月31日現在

(単位:円)

科 目	金 額		
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	1,402,480		
流動資産合計		1,402,480	
2. 固定資産			
固定資産合計		0	
資産合計			1,402,480
II 負債の部			
1. 流動負債			
役員借入金	1,007,175		
流動負債合計		1,007,175	
2. 固定負債			
固定負債合計		0	
負債合計			1,007,175
III 正味財産の部			
前期繰越正味財産		1,569,341	
当期正味財産増減額		△ 1,174,036	
正味財産合計			395,305
負債及び正味財産合計			1,402,480